

デーリー東北

2022年(令和4年)10月22日(土曜日) (16)

地域と共に歩む 八戸工業大創立50周年

創立50周年を迎えた八戸工業大。未来を担う若い人材の育成に取り組みながら、積み重ねた知的財産を駆使して地域貢献を果たしている。坂本禎智学長に今後の展望などを聞いた。

―50周年を迎えて
八工大は地域の発展とともに成長してきた。八戸市が新産都市として近代化する中、人材育成が必要となっていた時期に設立して今がある。この50年は地域と共にあったと感じている。節目に振り返ることも多かったが、特に30周年からの20年間で大学の自己点検・評価に関わる活動を大きく進めることができた。

④・完 坂本禎智学長インタビュー

刺激与え続ける機関に



創立からの50年を振り返るとともに、今後の展望について語る坂本禎智学長

―大学の果たすべき役割とは

簡単に言うと人材育成になると思う。また、地域の要請に基づき動いているということも多々ある。市からさまざまな委員を委嘱され、役割を果たしている。美術館や博物館にも知的財産を提供している。

―どのような学生を育てていくか

文理融合、広い範囲での学びを国が推奨する中、本学は50周年を機に改組し、幅広く学べるように工学部の5学科を1学科に統合した。現在の社会は一つの分野だけでなく、境界領域がかぶさっている。応用

が利かなければならない。本学は工学とデザインの領域がある。デザイン思考ができるエンジニア、工学の仕組みを分かっているデザインができるように、分野横断、学部横断の教育を行っていく。

―これからの展望は
これからの社会は「つながる力」が必要で、より産官学金の全てが連携していくことが必要と考えている。また、大学は何だろうかと考えたとき、18歳からの人材だけを育てるだけではない。地域の社会人あるいは、一般市民の人材育成が大事になる。積み重ねてきた知的財産、築き上げてきた教育、研究を通し、刺激を与え続けられるような機関になりたい。
(この連載は藤村大地が担当しました)